

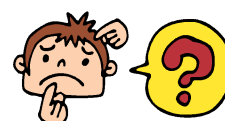
幼小中一貫校づくりに関するQ&A③

平成27年8月25日発行

今回は、福部地域幼小中一貫校「福部未来学園（仮称）」の「施設環境」、特に「校舎・園舎」についてお答えします。小中学校で実施したアンケートでも、関心が高かった項目です。



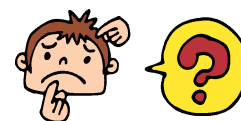
Q1 幼小中一貫校開校にあたって 現在の園舎・校舎はどうなるの？



A1 現在使用している幼稚園・小学校・中学校の園舎・校舎は平成28年4月の開校時には現状のままとなります。したがって、幼稚園、小学校、中学校は「隣接」「分離」した形での開校となります。

ただし、将来的には、「ビジョン図」にもあったように幼稚園、小学校、中学校が一緒になった「施設一体型」の施設環境をめざします。

Q2 「施設一体型」って どのような施設環境なの？



A2 「施設一体型」とは、学校園施設（校舎）、組織・運営ともに一体となり、幼小中一貫教育を行うことを指しています。

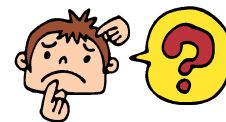
「幼小中一貫校」については、全国的にもあまり例がありませんので、他地域の幼小中一貫校の学校施設を見ると、施設を新しくしたり、既存の隣接した小中学校の校舎を改修したりして整備したものがほとんどです。組織・運営については、校長を中心に、小・中学校教員が一体となって子どもたちを指導しています。ここでは、小中の組織を一つとして、小中学校がこれまで築いてきた良いところを生かし、学校としての教育力を高められるよう様々な工夫をしています。調査によると、「施設一体型」校舎にしたことによる教育効果として、「小・中の児童生徒の交流機会の増加」「小・中の教員間の連携や交流の機会の増加」が概ね9割以上を占めており、特に、幼小中一貫教育校においては、「中1ギャップの減少」が約7割を占めるという結果が出ています。福部地域では、この形に、幼稚園を加えたものを創り上げていこうとしています。

「施設一体型」の他に「施設隣接（併設）型」「施設分離（連携）型」という施設環境もあります。この場合は、既存の小学校と中学校がそれぞれの学校施設（校舎）や組織・運営を別にしたまま、近隣の小・中学校が連携して幼小中一貫教育を行っていくこととなります。多くの地域や学校が、このスタイルで「小中連携」に取り組んでいます。小中の授業交流や教職員の連携、合同行事の実施などをおし、子どもたちを指導します。福部小学校・中学校も、この形で「小中連携」に取り組んできました。

ただ、「施設隣接型」「施設分離型」という形態では福部地域が考えている「幼小中一

貫教育」のメリットを生かすことができません。一体となった施設内で生活や学習をともにすることで、「学習」「仲間」「教職員」「地域」そして「未来」とのつながりを大切にした10年間の教育活動が可能となるのです。

Q3 幼小中一貫校の「施設環境」はいつ、どのようになるの？

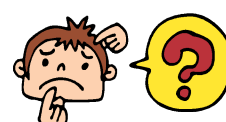


A3 現在「教育環境部会」を中心に、校舎等の「施設環境」について話し合いを行ってきています。国（文部科学省）の定める児童生徒数に対応した校舎面積の基準に照らしてみると、福部小学校・中学校の校舎は「十分過ぎる施設環境」といった現状があります。そこで、地域としては、今までのところ以下のような計画を考えています。

- ①施設環境は、現在の小学校校舎をベースに、一部中学校校舎を利用した「施設一体型」とする。
- ②児童生徒数に対応した国の面積基準の関係上、新築ではなく現在ある校舎を改修することで、対応していく。
- ③現在ある小学校と中学校の体育館やプールは、児童生徒数に対応した国の面積基準に関係なく使用できるので、そのまま利用する。
- ④まずは小中学校の施設環境の整備を行い、その後、現在小学校と中学校の間にある運動場に幼稚園の移設（増築）を行う。
- ⑤幼稚園、小・中学校の園児・児童生徒の「異学年交流スペース」となる施設を増築する。また、コミュニティースクールの視点から「地域・保護者の方々が交流できるスペース」を確保する。 など

この計画でも、通常「設計」に1年以上、「工事」に1年以上かかるそうです。したがって、小中が一体となった「施設一体型」校舎が実現するのは、早くても「平成30年度」ということになります。

Q4 幼小中一貫校の「施設環境」整備を国が支援するって本当なの？



A4 本当です。新聞報道等にもあったように、福部地域の「幼小中一貫校」の施設整備の計画策定に対して、鳥取市が国の支援を受けることになりました。「小中一貫校に適した学校施設計画・設計プロセス構築支援事業」という事業で、国が鳥取市と委託契約を結ぶことで、整備計画の作成をサポートするといった取り組みです。国が全国から公募し、6月12日付けで応募のあった鳥取市を含む3つ自治体がありました。

今後、市と「教育環境部会」が中心となり、国から派遣された専門家（学校建築）のサポートを受けながら、地元の設計コンサルタントと連携を図り、幼小中一貫教育を行うにふさわしい施設整備の計画づくりを進めていくこととなります。

福部地域の「夢」や「願い」を、具体的な「形」にしていく大切な取り組みです。着実に進めていきたいと考えています。



文責：幼小中一貫校推進委員会啓発部会 長石 彰(福部中学校教頭)